

## Parlando Interview

きき手：關 音々子(大学院音楽研究科修士課程器楽専攻[ピアノ]1年)

久元 祐子 先生  
(ひさもと・ゆうこ)

演奏家としてはもちろん、教育者、本の執筆など、幅広く活躍されている久元祐子先生。愛する音楽を通じた出会いに感謝し、大切にする。穏やかな口調から情熱的な思いが溢れます。

ゆい  
国音は結の世界

## ピアノとの出会い

—— ピアノを始めたきっかけを教えてください。

久元 母がとてもピアノが好きで、私が3歳ぐらいの時に買ってくれました。団地上階の窓から見て「あ、ピアノが来る!」という嬉しかった記憶は、今も鮮明に残っています。



写真提供：久元先生

—— では、お母様のお考えとか音楽環境、生活環境が元々整っていたんですね。

久元 両親は音楽が好きでしたが、音楽家ではありません。親戚にも音楽家はいなくて、音楽を志すには、甚だ心細い環境と言えましょう。

小学校のときには、ピアノ以外のことにたくさん興味がありました。陸上部に所属しており、短距離の選手として神奈川県大会のリレーで2位になり、将来は国体に出たいと夢んだり、アナウンサーに憧れてみたり。本が大好きだったので夜更けまで読み耽り、主人公になりきっているような子供でした。

ピアノのほうは、当時、近所にとっても良い先生がいらして3歳からピアノのレッスンを始めていたのですが、本格的に音楽の道に進もうと決めたのは、中学2年生のときでした。先生が「この子は音楽に

進んだほうがいい」と強く勧めてくださったのです。でも両親が「私たちの子供なのだから才能があるはずがない、どうやってやめさせようか」と話しているのを隣の部屋で泣きながら聞いていた記憶があります。両親はずっと“いかに諦めさせるか”と思案していました。自分たちは音楽家ではないし、どうも大変そうだし、よく分からない世界に子供が入るというのも困ると思ったのでしょう。また、私には弟がいたので姉弟平等に教育を受けさせたいという思いがあったように思います。けっきょく両親の反対を押し切ってわが道に進むことになったわけです。

## 鍵盤楽器奏者として

—— ピリオド楽器の奏者としても活躍されていますが、さまざまな楽器を弾きこなすには?

久元 なるだけ多くの鍵盤楽器に触れること。楽器が教えてくれることはとても大きい。

今年の春には国立音大楽器学資料館でショパンの時代の楽器を6台使ったシンポジウムで演奏させていただきました。その直後に現代のピアノを弾くと、これはオカルトみたいな世界なのだけれど、何かが肉体を通して現代のピアノに乗り移るような……。

たとえばモーツァルト時代の6ミリの深さの鍵を弾く。今は10ミリでしょ。そうすると、その6ミリの感覚を指が覚えているから、現代のピアノを弾いたときにも下まで押し込まず、ハーフタッチがいつの間にか自然に出来ていたり。

18世紀後半から19世紀初頭にかけてのピアノは現代のピアノとは全く違っていました。しかも短い期間に大きく変わっていったので

す。一台一台の楽器が手作りで、個体差も大きかった。そういう鍵盤楽器の変遷の時代を体験することによって、それぞれのピアノの個性に面食らうことが少なくなる。アクション、ハンマーの大きさ、タッチの深さなど「ピアノ」という一つの単語でくれないほど違うので。

モーツァルトも、オルガンを弾いて、クラヴィコードを弾いて、チェンバロを弾いて、フォルテピアノを弾いて・・・という楽器の変遷の時代に活躍したから、おそらく鍵盤楽器へのフレキシブルな対応力は並外れたものだったでしょう。

## モーツァルトとの出会い

—— 久元先生といえば一番にモーツァルトが浮かぶのですが、モーツァルトとの最初の出会いは何でしたか？

久元 父親がモーツァルトがすごく好きで、イングリット・ヘブラーなどのLPをかけていました。それを聴いて、なんて透明な世界なんだろうと感動しました。

その後モーツァルトを弾くようになって譜面を見てみると、大胆にぶついている意外な不協和音もあって、あらためて驚きました。にもかかわらず、なぜこんなに透明感のある音楽になるのかと、すごく不思議に思ったのです。一個音を変えただけで、闇の世界から光になったり、絶望から希望に変わったり。

でも演奏するとなると、モーツァルトはアラが目立つし、スッピンで美人コンテストに出るようなもの。卒業試験でモーツァルトを選ぶ人がほとんどいないでしょ。お化粧していいですよと言われたら、やっぱりお化粧して出たほうが有利だし。私自身も学生の時には試験でモーツァルトなんて弾けなかったし、先生からも「モーツァルトを出すのは10年早い」と言われました。

弾き始めたのは、卒業後、演奏活動の中でリクエストが最も多かったからです。モーツァルトの愛好家は日本全国にたくさんいらして「モーツァルトを1曲入れてください」と言われる。スッピンで出るのは嫌だなと思いながら始めたモーツァルトでしたが、モーツァルトを弾いているうちに、少ない音符でこれだけ多くの感情を表せる作曲家ってすごい！と魅了され、引き込まれていったのです。

今、「モーツァルトと同時代人たち」をライフワークにしています。モーツァルトが生きた時代には、星の数ほどの音楽家が活躍していたのに、なぜ今モーツァルトが特別に輝いた存在として後世に残る力を持っているのだろう。その比類のなさはどこから来ているのか探りたいと思って、気がついたところまでできました。でもやればやるほど解らないことが出てくるし、解ったかなと思うと指の間からスルスル抜けていく。まだまだこれからです。自分としてモーツァルトに少しでも近づきたいと思っています。

## 音楽の魅力とモチベーション

—— 学生時代にやっておいたほうがいいことはありますか？

久元 いろいろな音楽を徹底的に聴き、様々な音色を感じる耳をつくること。若いときの感動に震える経験は、人生の宝。音楽は気が遠くなるほどの昔から存在し、進化してきました。人間はたくさんの曲

を作り、その中から優れた作品を選んできたけれど、それらも国により、時代によりさまざま。16世紀ごろから20世紀にかけてのヨーロッパ音楽は、人類の遺産とされています。ドイツ、フランス、イタリア、ロシア、イギリスをはじめ、できるだけ多くの作品に触れることが大切。また自分の専攻している楽器だけでなくあらゆるジャンルの作品を聴く中で、音楽の魅力に触れていくこと。

そして音楽には音楽の理論がある。特に和声を学ぶことが、演奏する上で大きな力になると思います。

と同時に自分の音楽をできるだけたくさんの人に聴いてもらう機会を持つこと。これは待っているだけでなく自らチャンスを作っていく。うまくいくこともうまくいかないことも、あとで振り返ったときに貴重な財産に変わるでしょう。つまりインプットとアウトプットの両方が必要なのです。

そして演奏は、生身の肉体を通して表現する世界。緊張と弛緩を自らコントロールできる身体を作ることが大切だと思います。自らの体の声を聴き、心のまま自由に動ける体づくりが大事だと思うのです。

—— 日々、本番に追われているかと思うのですが、本番で緊張とかされることありますか？

久元 もちろんあります。ステージには魔物が住んでいるし。崖っぴちに一人で立つような恐ろしい思いを重ねています。同時にその恐ろしさを知ることは練習のモチベーションにつながる。普段できないことが本番でできるはずがないし、失敗には必ず理由がある。自分の肉体や精神をコントロールする力をつけるため、今も修行途上です。練習の積み重ねや緊張感の向こうに、奏でる悦びが待っている、と信じています。

—— 久元先生にとっての音楽の魅力、楽しさ、ここまで続けられてきたモチベーションというのは、そういったところにもおありですか？

久元 ええ。時代を超えて、国境を越えて残ってきた曲には、その音楽に力があるから、何回弾いても飽きない。例えばベートーヴェンのピアノ・ソナタ《ワルトシュタイン》は、私、大学の受験で弾き、その後も演奏会で弾いたりCDの録音もし、何回も弾いています。それでも毎回、弾くたびに何か新しい発見がある。その深さとか人の心に届く力を持った音楽というのは、“やっていてよかったなあ”と思います。自分の成長の過程をその古典が鏡のように見せてくれますよね。

人が人を好きになったり、悲しかったり、嬉しかったり、...という感情は、何年たってもそんなには変わっていないと思う。それを表



写真提供:国立音楽大学楽器学資料館



現する楽器が変わったり、国が変わったり、弾く場所が変わったりということがあっても、そのエッセンスの部分は変わらない。それを引き出していきたい。それはきっと、人の心に通じるとしています。

と同時に、現代まさに生まれたばかりの作品、私達と同時代を生きている作曲家の音楽を知ったり弾いたりすることも素晴らしいことだし、演奏家の使命。作曲家が楽譜にしたことを演奏家が音にする。楽譜に書かれた記号を読み解く楽しさが古典の喜びだし、そのヒントやメッセージをタイムリーに受けとりながら現在進行形で音を作っていけるのが、現代音楽演奏の喜び。

## 音楽を言葉に



—— 多くの本を執筆されていますが、音楽を文章にする難しさは？

久元 音楽は、心を伝えることができる。ときには言葉では表現できないような複雑な思いや、言葉にできること以上の感情を伝えることができる。私のような乏しい筆力だと、音楽を言葉にした段階で、微妙にずれたり、狭くなったり、思考と少し違うところに行ってしまったかなと思う時がしょっちゅうです。

けれど音楽を言葉にすることによってあいまいだったものが整理されたり、認識を新たにすることもある。目に見えない感覚の部分が、執筆によって一つの形態として眼前に立ち現れると思っています。そういう面で、自らの学びのためにも書くことは細々と続けていたら、と考えているところです。

—— たくさんの情報に囲まれている時代をどう思いますか。

久元 私が学生の頃は、情報をゲットするのがすごく大変な時代で、モーツァルトと同時代の作曲家でも、有名でない作曲家の資料はわざわざウィーンに行って調べました。でもウィーンの図書館もウィーンに住んでいないと借りることができないという決まりがあったりとか、コピーをしても「演奏しません」という紙にサインさせられたりとか、そういう時代でした。ウィーンで遊学している友人を捕まえて「一緒に行つて」と頼んで、ビールおごって、それでようやく1枚譜面が手に入るとかね。でもその分、手に入れた楽譜に愛着が生まれます。今はクリック一つでネットから入手でき、情報量の多さはもう全然比較になりません。情報をゲットするまでが難しかった時代と、情報があふ過ぎて大変な時代と……。

たくさんある中でどれを取捨選択するかとか、正しい情報かどうかを見極める必要も出てくる。

それはピアノ教育の世界でも言えると思います。バイエルからチェルニー……という決まったコースしか知らなければ、迷いなくその道を邁進しますが、“最新のコースがあります”“アメリカの楽しいコースがあります”“ロシアのメソッドもあります”となると、そこから何を選び、どう取り入れていくのが重要になってきます。自分の理想というのを、迷った末に見つけなければならない。迷わず“これですよ”という時代ではないから、それだけしっかりした判断が求められます。この点については、様々な先生から意見を聞いて、最終的には自分で決断することが必要です。

—— 国音の魅力は？

久元 雰囲気明るい。学生同志が、兄弟姉妹という感じ。それは、「アンサンブルのくにたち」の中で生まれてきた素晴らしい伝統だと思います。この気持ちの温かさは、社会に出た時に、大きな力になることでしょう。

同調会のコンサートなどで、そういう「人間力」を持った卒業生の皆さんにたくさんお会いしてきました。皆を牽引し、その社会で活躍していらっしゃるんですね。そんな“結(ゆい)”の精神が国音の魅力だと思うのです。

それに加え、音楽大学としてアジア随一の図書館があり、スタッフのみなさんが手厚く資料探しをサポートしてくださる。楽器学資料館で歴史的楽器に触れることもできる。

ハード面においてもオペラスタジオ、オーケストラスタジオ、素晴らしいレッスン室など、音楽を極めたいという気持ちを生かせる優れた教育環境も特筆すべきでしょう。

—— 最後に国音の学生へのメッセージをお願い致します。

久元 体力も気力も充実している時期に、様々な経験を積んでほしい。汲みつくせないほどの知の宝庫である大学を最大限に利用していただきたい。

その中で多くの出会いにも恵まれるでしょう。人生を変えるような出会いは、その時は偶然と思っていても、あとで振り返ると、何か自分の力以上のもの、もしかしたらミューズの神様が決めてくれた必然と思えることも。一つの出会いが次の出会いを生み、多くの実りをもたらしてくれることでしょう。その瞬間、瞬間を大事にしてほしい。

私自身も卒業して最初の演奏会は、小さな社会教育会館で始め、お客様が5人、10人、20人という感じで大きくなっていきました。コネもない、お金もないという中で、ちょっとずつ輪を広げていった感じでした。これまで支えてくださった方や一緒にアンサンブルを組んだ楽友、皆に感謝しています。

国音で培った愛と音楽の力を糧に、一つしかない命、一度しかない人生を、豊かなものにしてほしいです。

—— ありがとうございました。(了)



## プロフィール

## 久元 祐子(ひさもと・ゆうこ)

東京藝術大学(ピアノ専攻)を経て同大学大学院修士課程を修了。平成17年より講師、23年より准教授、29年より教授として国立音楽大学で教鞭をとる。現在ピアノ実技の他、演奏論、ピアノ教育論、作品研究、演奏解釈などの授業を担当。

ウィーン放送響、ラトビア国立響、読響、新日本フィル、日本フィル、神奈川フィル、ウィーン・サロン・オーケストラ、ベルリン弦楽四重奏団など、内外のオーケストラや合奏団と多数共演。音楽を多面的に捉えることを目指したレクチャー・リサイタルは朝日新聞・天声人語にも紹介される。ブロードウッド(1810年頃製)ベーゼンドルファー(1829年製)、プレイエル(1843年製)エラール(1868年製)などのオリジナル楽器を所蔵。歴史的楽器を用いての演奏会や録音にも数多く取り組む。ショパン生誕200年記念年には、全国各地でプレイエルを使っの演奏会に出演。軽井沢・大賀ホールにおいて天皇后(現・上皇皇后)両陛下ご臨席のもと御前演奏を行う。2011年ウィーンでのリサイタルは、オーストリアのピアノ専門誌の表紙を飾り、日本人で唯一ベーゼンドルファー・アーティストの称号を受ける。イタリア国際モーツァルト音楽祭にたびたび招かれリサイタルを開催。CD「優雅なるモーツァルト」は毎日新聞CD特薦盤、レコード芸術特選盤に選ばれ「ベートーヴェン“テレーゼ”“ワルトシュタイン”」はグラモフォン誌上で「どこからどう考えても最高のベートーヴェン」など高い評価を得る。

<http://www.yuko-hisamoto.jp/>

## 久元先生おすすめの資料

## 図書

星の王子さま 愛蔵版 サン＝テグジュペリ作

請求番号●今月の葉 77 久元祐子 (L001498) [ほか]

大人になっても子供の心を忘れない。音楽を志す者にとって大切な1冊。

五輪書 宮本武蔵著

請求番号●J21-671

本番に向けての精神の鍛錬に、多くの示唆に富んだ1冊。

君たちはどう生きるか 吉野源三郎著

請求番号●J52-882 [ほか]

人間にとって大切なものは何か、考えさせられました。

## DVD

ショーシャンクの空に

請求番号●VX681

音楽の力、美しさ、神秘を感じさせてくれる名画。

## CD

Last recital / Lipatti

請求番号●XD51402

演奏の持つギリギリの力を感じてほしい。

Pachmann in London 1925 & 1927

請求番号●XD56331

圧倒的な存在感。自由なファンタジーとともに奏でる悦びにあふれた演奏。

## 久元先生のCDと著書

## &lt;CD&gt;

久元祐子 with 280VC ベーゼンドルファーで奏でるモーツァルト KV397, 352, 331, 332, 333 ALM Records ALCD - 9178  
請求番号●XD74507

優雅なるモーツァルト Piano Sonata KV331, 333 ALM records ALCD - 9155  
請求番号●XD71848

学習するモーツァルト Piano Sonata K282, 283, 284 ALM records ALCD - 9109  
請求番号●XD67043

ハイドンとモーツァルト Hob. XVI-23, 46 KV279, 280, 281 ALM records ALCD - 9089  
請求番号●XD63828

青春のモーツァルト Piano Sonata K311, 309, 310 ALM records ALCD - 9075  
請求番号●XD60019

Liszt Annees de Pelerinage "Italie" Bishop Records EXAC0002

ピアノ名曲による花束 Pro Arte Musicae PAMP - 1026  
請求番号●XD56625

MOZART Piano Concerto KV37, 271 LA FORTE

Nostalgia ライヴノーツ WWCC7447  
請求番号●XD51165

ベートーヴェン「テレーゼ」「ワルトシュタイン」 ALM records ALCD9021  
請求番号●XD45405

Chopin Balcarolle, etc ALM records ALCD9016  
請求番号●XD43358

## &lt;著書&gt;

名器から生まれた名曲③リストとベーゼンドルファー・ピアノ 学研プラス 2016  
請求番号●シラバス 久元祐子 11 (J130618)

名器から生まれた名曲②ショパンとプレイエル・ピアノ 学研プラス 2014  
請求番号●シラバス 久元祐子 10 (J128075)

名器から生まれた名曲①モーツァルトとヴァルター・ピアノ 学研プラス 2013  
請求番号●J125596 [ほか]

「原典版」で弾きたい! モーツァルトのピアノ・ソナタ アルテスパブリッシング 2013  
請求番号●シラバス 久元祐子 8 (J125456)

作曲家別演奏法II モーツァルト ショパン 2008  
請求番号●J115-256 [ほか]

モーツァルトのピアノ音楽研究 音楽之友社 2008  
請求番号●J114-102 [ほか]

作曲家別演奏法: シューベルト・メンデルスゾーン・シューマン・ショパン 2005  
請求番号●J105-564 [ほか]

モーツァルト 18世紀ミュージシャンの青春 知玄舎 2004  
請求番号●J101-020 [ほか]

モーツァルトはどう弾いたか インターネットで曲が聴ける 丸善 2000  
請求番号●C64-852

モーツァルトのクラヴィーア音楽探訪一天才と同時代人たち 音楽之友社 1998  
請求番号●C63-038